

ロジカルシンキング研修

対象者：一般職員～中堅職員

1. 研修の目的

仕事を行う上での基本となる論理的・合理的な思考方法を修得し、情報伝達力や問題解決力、意思決定力を強化することを目的とします。

2. 研修内容（午前）

	内 容	詳細、得たい成果
9:00	1. ロジカルシンキングとは何か ～論理的思考の人と情緒的思考の人・・・ 【講義】	ロジカルシンキングとは、一貫して筋が通っている考え方。 ◆ 問題解決の場面における情緒的思考な人と論理的思考の人の違い。 ◆ 情緒的な人は、「まあ、やってみましょう!」、論理的な人は、「やるうえでの障害と弊害を考えておきましょう」。 ◆ 情緒的な人は、「解決策はこれしかないです」、論理的な人は、「こういう方法と、その反対にこんな方法もあり得ると思います」 ◆ 情緒的な人は、「とにかくこうすべきなんです」、論理的な人は、「こうすべきです。なぜならば・・・」 ◆ 情緒的な人は、「かなり」、「ずいぶん」等のあいまいな表現。論理的な人は、「前年比15%アップ」、「84人中21人、25%が」というように具体的な数字を使った表現。
	2. ツリーで思考できるようになる 【講義・個人ワーク・グループワーク】	◆ ツリーで考えられるようになる。 ① Why ツリー:「なぜ、そうなのか?」でつなげる。 ② How ツリー:「そのためには?」でつながる。 ③ What ツリー:「具体的に言えば?」でつなげる。 ※グループワーク:問題の原因を Why ツリーで表現してみる。
	3. MECEで思考できるようになる MECE:漏れなく、ダブリなく 【講義・個人ワーク・グループワーク】 (Mutually Exclusive Collectively Exhaustive)	◆ 物事を漏れなく、ダブリなく (MECEで) 考えていけるようになる。 ◆ そのために必要になるのが、フレームワークの知識。 ◆ 多面的思考で考えるためにもフレームワークを使いこなせるようになる必要がある。
12:00	4. 具体的な数字を使って思考できるようになる 【講義・個人ワーク・グループワーク】	◆ 数字は、単独では意味がない。 ◆ 数字は、別の数字と比較してこそ意味を持つ。 ◆ 過去との比較、未来(目標)との比較、競合との比較、住民の期待との比較、標準との比較。 ※グループワーク:数字からどんな発想をするか

2. 研修内容（午後）

	内 容	詳細、得たい成果
13:00	5. マトリックスで問題を整理できるようになる 【講義・個人ワーク・グループワーク】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 縦軸、横軸に項目を取り、3つの象限で物事を整理できるようになる。 <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 職員の分類：縦軸に「やる気（高い、低い）」、横軸に「能力（高い、低い）」 ◆ 目標に対する結果の分類：縦軸に「目標（達成、未達成）」、横軸に「プロセス（実行、未実行）」等。 <p>※グループワーク：リーダーシップの分類をマトリックスで考えてみる</p>
	6. 問題解決プロセスで思考できるようになる 【講義・個人ワーク・グループワーク】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 問題解決プロセス（現状把握⇒原因分析⇒目標設定⇒対策立案）の流れを意識して思考できるようになる。
	7. ロジカルシンキングで「情報伝達力」を高める 【講義・個人ワーク・グループワーク】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新聞記事をロジカルに分かりやすく伝えるとしたら…
	8. ロジカルシンキングで「問題解決力」を高める 【講義・個人ワーク・グループワーク】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「どうしたら自部署の残業を減らすことができるか？（仮）」をテーマに How ツリーで対策を考えてみる。
	9. ロジカルシンキングで「意思決定力」を高める 【講義・個人ワーク・グループワーク】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「どうしたら自部署の残業を減らすことができるか？（仮）」をテーマに How ツリーで考えた対策の中から優先順位をつける。 ◆ 縦軸に「効果（高い、低い）」、横軸に「取り組みやすさ（易しい、難しい）」を取ったマトリックスで対策を分類。その中で、最も取り組みやすく、効果の高い対策を抽出する。
	10. まとめ 【講義】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 1日の研修を振り返り、今後どんなことに取り組んでいくのかを決める。
	11. 講師講評 【講義】	
16:30		